

認定特定非営利活動法人 日本雲南^{れんぎ}聯誼協会

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1 階

Tel: 03-5206-5260 Fax: 03-5206-5261

Email: yunnan@jyfa.org URL: http://www.jyfa.org/

【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室
Tel: +86-871-63311468 Fax: +86-871-63320658

f http://www.facebook.com/NPO.JYFA @jyfa

ブログ 雲南の郵便屋さん

検索

編集・発行人 初鹿野 恵蘭

印刷協力 昭和情報プロセス(株) (株)技術評論社 / デザイン Hope Company



Japan Yunnan
Friendship Association

彩雲の南

第68号

会
報

発行日 2019年(平成31年)3月15日

25の小さな夢基金 2019年1月 サポーターの皆さんから春蕾生へ 心のこもったお手紙と贈り物を届けました



▶ 初鹿野恵蘭理事長から贈り物を手渡しました

は想像して、手紙も贈り物も用意しておいてよかったと心から思いました。

昨年は忙しさにかまけて手紙も書かず、贈り物も用意しませんでした。協会が用意

春蕾生たちの歓声が響き、校庭の大きな紫木蓮は満開でした。常春の国、雲南の一月は日本の四月です。「千里鶯啼いて緑紅に映ず 水村山郭酒旗の風」という杜牧の漢詩「江南の春」を思い浮かべました。

サポーターの皆様から春蕾生へのお手紙と贈り物を届けるため、私たちは昆明を訪れました。昼下がりの校舎には、春特有ののんびりした雰囲気が漂っていました。標高1,900mの昆明のさらなる高み、校舎8階の講堂へみんな

手分けして贈り物を担ぎ上げました。たくさんの贈り物はとても休憩なしでは運べません。講堂に着くころには青色吐息、高地トレーニングを終えたマラソン選手のようにでした。

しばらく休息して贈呈式が始まりました。学年ごとにお手紙と贈り物が振り分けられており、生徒は一人ずつ名前を呼ばれて、初鹿野理事長から順次それを受け取りました。

サポーターからお手紙と贈り物が届いている生徒はそれらを、届いていない生徒は協会が

用意したお手紙と文房具を受け取ります。みんな、嬉しそうな顔をしていました。きっと、この日を待ち望んでいたのでしょう。

初めて贈呈式に臨んで「今年は手紙と贈り物を用意して本当に良かった」と思いました。サポーターの皆様からの励ましのお手紙と心のこもった贈り物を受け取った生徒は、とても嬉しそうだったからです。自室に帰ってお手紙と贈り物を開け、きっと同室の仲間と見せたことでしょう。私のおじいさんは、おじいさんは、お

▶ 寄宿生活を送りながら夜遅くまで勉強に励んでいます

顧問 瀧岡彰



ばさんは、ちょうど欲しかったものをプレゼントしてくれた。成績が伸び悩んでいる生徒は、手紙を読んで大いに励まされたことでしょう。そういう姿を見て、あるい

道や柔道、剣道、太鼓、歌、手工芸、着物などを体験し、春蕾生の心に大きな印象を残しました。春蕾生は7族や14族の舞踊と歌曲を披露し、日本人学校生徒のみなさんに好評をいただきました。貴協会が本校と上海日本人学校高等部との間に交流の土台をつくり、日中高校生の相互理解と絆を深めてくれたのみならず、日中の教育関係者の積極的な交流をも促進したことは、大きな意義があります。

最後に、本校春蕾生へのご支援に対し、初鹿野恵蘭理事長、三木秀隆様、平田栄一様、佐伯義博理事、唐燕様に重ねてお礼を申し上げます。貴協会のますますのご発展を祈念申し上げます。

昆明市女子中学校校長 陶紅
翻訳：平田栄一さん

陶紅校長

昆明市女子中学校を代表して、多年にわたる本校春蕾生へのご援助並びに中日青少年の文化交流活動に対して、日本雲南聯誼協会の初鹿野恵蘭理事長、協会会員のみな様、善意の方々

に謹んで感謝を申し上げます。

貴協会は中日文化交流の大きな架け橋です。日本の方々や在日華僑のみなさんに雲南少数民族の文化や子どもたちの教育に関する理解を広め、少数民族の子どもたちには日本の文化、教育に関する理解を広めています。

わたしは昆明市女子中学校校長に就任後、協会の心優しい方々とお目にかかる機会を得て、貴協会への感謝の気持ちを新たにしました。また、本校教師並びに生徒から口々に貴協会に対する賞賛、感謝の言葉を聞いております。本校春蕾生は就学に困難を抱えています。貧困が大

きな妨げとなっています。故に本校は「自尊、自愛、自立、自強」の「4つの自ら」を教育目標に掲げ、「博雅(豊かな知識)」の教育理念のもと、春蕾3年間の在学期間中に全校をあげて、春蕾生を新時代の「文明、達観、自然、優雅、博学、気配り、自律、奮闘」の卒業生として送り出すべく努力しています。

春蕾生は貴協会との面会交流や「夢は叶う」講演会、贈り物の交換、手紙の交換などを通して見識を広め、自信を強め、感謝の心を学んでいます。とりわけ今年3月に行われた上海日本人学校高等部との国際交流活動では、日本の茶

25の小さな夢基金

温かい心でともに春蕾の夢を応援しましょう

25の小さな夢基金

尊敬する鴻谷光昭おじいさま 李一帆(イ族)

こんにちは! おじいさまからのプレゼントが届き、とても嬉しいです! プレゼントを受け取ると、いつも私はおじいさまの優しさや愛に包まれていると感じます。時の流れは本当に早く、高校生活はもう2年が過ぎました。始まりを思い返せば、おじいさまのご支援がなければ、私ただの貧しい農村の学生に過ぎませんでした。

私は農村の家庭で育ち、両親は固定収入が何もなく、家庭の経済状況は厳しく、両親は生計を立てるのに苦労していました。祖母は過労から病に倒れました。おじいさまからのご支援

が受けられることになった時、嬉し涙で涙む腫の先に希望の光が見えました。そして決意しました。「私はタンポポになろう」。私がおじいさまからご支援を受けたように、私も支援を必要とする人を助けられるようになろう、と。

もしおじいさまからのご支援がなかったら、私はこんなに輝かし素晴らしい高校生を送ることはできず、高校の先進的な授業や素晴らしい学習環境も得られなかったでしょう。特に専門的な高等教育については言うまでもありません。

私は学校で学習のチャンスというものは得難

いことを知っていましたので、様々な活動に積極的に参加し、先生の話や聞き、クラスメートと助け合って締め切りまでに宿題を終わらせてきました。私は自分の将来のためにずっと一生懸命に努力しました。その努力のモチベーションはおじいさまからのご支援によるものです。

ここで再びおじいさまに感謝させて下さい! 本当にありがとうございます!

ずっと私に対する思いやりを持ち、3年間私を励ましてくださった事に感謝しています!

翻訳：渡部優美さん



◀ わざわざ事務所まで贈り物を持ってきてくださった鴻谷光昭さん

25の小さな夢基金 連載 卒業生の今 Vol.4

力仕事も手伝います

2013年度 春蕾卒業生 玉応坎さん

私は2013年度の春蕾卒業生です。現在はシーサンパンナ州勐海県勐満鎮の衛生院^{注1}で会計の仕事をしています。正規の会計士ではありませんが、この仕事ができる機会を大切にしています。経済的に独立することで、家計の負担を減らすことができるだけでなく、二人の弟に生活費をあげることができます。会計は非常に専門性の強い仕事ですが、私は会計専攻ではなかったのに、仕事を引き継いだばかりの頃は問題だらけで、しょっちゅう残業しては、どのように問題を解決するかを学び、絶えず専門知識を深め、ある時は会計業界の先輩に教えるを請うなどして、徐々にこの仕事ができるようになりました。仕事を通して、仕事上の難題を解決する方法を学んだだけでなく、質的にも量的にも確かな仕事を決められた時間内に仕上げることや、同僚との人間関係を大切に、礼儀を以て人に接することで職場の雰囲気を気持ちよいものにすることも学びました。

高校で学んだ三年の日々は、一生忘れることのない、素晴らしい時間でした。根気良く丁寧に指導して下さった先生方、様々な地域からやってきた様々な民族の友人たち、時に厳しく優しく接してくれた宿舎のおばさん、そしてもちろん協会のおじさま、おばさま方、皆さんが私に温かい関心を寄せ、支援をしてくださいました。特に、会ったこ

注1 衛生院：衛生や予防医療を行う地方行政機関

現在の玉応坎さん
職場にて

ともない私をずっと援助してくださったサポーターの松井紀子さんは、まだ社会に出る前の私の心に、感謝の花の種を植えてくださいました。松井さんへの感謝の気持ちでいっぱいです。高校三年から大学四年まで、私が学び続けることをずっと支援してくださいました。何度もお手紙や贈り物を送ってくださり、私の勉強や成長の様子を気にかけてくださいました。お手紙や贈り物をいただくたびに、うれしさと感謝で胸がいっぱいになりました。

この場をお借りして、惠蘭おばさまにも感謝を伝えたいと思います。在学中も社会に出てからも、おばさまはずっと連絡をくださり、陰ながら私の生

活を気遣ってくださいました。おばさまのおかげで、卒業後も支援者や協会と連絡を取り続け、感謝の気持ちを表すことができました。

卒業後は社会に出て働いていますが、今でも学び続けています。真剣に仕事をするということは、絶えず学ぶ心、絶えず自分を高める姿勢が基本です。二人の弟たちが大学に通っているため家の経済的負担はありますが、今は社会に出たことで、姉として家計を助けることができます。休みの時はできるだけ家に帰って、家族と過ごすようにしています。社会への恩返しをする十分な力が身につくまでは、私は家族の面倒をよくよく見ようと思います。家族が社会の負担とならないようにすることも、社会にできる恩返しのひとつの形だと思っています。

最後に、ずっと支えてくださった松井さんと協会の皆さん、本当にありがとうございます。皆さんからは、物質的な援助以上に、私の心と成長の道



の上で、とても大きな支援をいただきました。皆さんからの助けがあったおかげで、私は貧しい生活から飛び出し、楽しく元気に成長して、より良く生きる条件を得ることができました。私の初心は、努力してよりよい自分になること、前向きに人生を楽しめる人間になることです。これからも、感謝を胸に。

2010年入学 第5期生 玉応坎（ブーラン族）

翻訳：栗田久里子さん



実家にて

25の小さな夢基金 心と心を通う 1対1の支援

2007年に入会以来、「25の小さな夢基金」サポーターとして雲南の子供たちに思いを寄せ、ボランティアとしては国際交流や大宮支部のイベントに積極的にご協力いただいている川口邦夫さん。「25の小さな夢基金」ではこれまで8名の春蕾生を支援し、心のこもった直筆のお手紙とプレゼントを贈って、彼女たちの成長を日本から温かく見守り続けています。そんな川口さんの雲南との出会い、春蕾生への思いをご紹介します。

国際協力イベントではなくてはならない存在です（2016年、グローバルフェスタJAPAN）



25の夢基金サポーター寄稿

始まりは麗江の壊れた民家の壁から

私と雲南の出会いは偶然からでした。当時勤めていた会社の定年退職者に対する「特別手当」制度を利用し、趣味の写真撮影に行くことにしました。その時、たまたま写真雑誌にあった「写真撮影ツアー」の行く先が「雲南」だったのです。

ツアーでは麗江や香格里拉などを巡りました。麗江で撮影をしていた時、ふと目に留まったのが壊れかかった民家の壁でした。父が初めて建てた我が家の壁と良く似ていたのです。竹を縦横に組んだ下地に藁を混ぜた土を塗り、その上に白い漆喰を塗ったものでした。

帰国してから壁の事を調べると、それが「木

舞」というものだと分かりました。ネパールから南西中国、台湾、日本にかけて竹を建築資材として使う伝統があり、それは「照葉樹林文化」と名づけられた文化の一部でした。そして「住」のみならず「食、衣」などの生活文化や「信仰、民話」などの精神文化にも共通点があることが指摘されていました。

「照葉樹林文化」のことをさらに調べると、「黄河文明」が興っていたころ、長江周辺には「長江文明」があったそうです。それが「黄河文明」に押されて南、西、東へと移動を余儀なくされ、南西へ移動した人々の一部が雲南の少数民族であり、東へ移動した人々が台湾を経て海を渡り日本人になったということです。このため、雲南の少数民族は私にとって文化的「同胞」であり「兄弟」だというふうに思えました。

イベントなどの協会の活動紹介でよく「何で雲南なんですか？」と質問されます。

支援してる春蕾生へ手作りの贈り物をわざわざ事務所までお持ちくださいました



そんな時、こう答えるようにしています。世界や日本には支援を必要としている人が大勢います。私一人で全ての人を支援するのは到底無理です。しかし、人々が各々の身近で支援を必要としている人にすれば良いのではと。

私は現在3名の春蕾生を支援しています。年齢こそお爺さんと孫程離れていますが、私にとっては文化的「兄妹」なのです。私は「妹たち」のそれぞれの夢が叶うことを願って支援しています。今は私たちが支援していますが、次は「春蕾」クラスを卒業した皆さんが支援する人になってくれるよう願っています。様々な「弱者」への支援の輪が広がるように。

会員・「25の小さな夢基金」サポーター

川口邦夫

愛と感動の旅立ち…… 第11期春蕾生卒業式参列 「ふれあいの旅」

春蕾生卒業式に参列する「ふれあいの旅」を今年も6月末に実施します。春蕾生ふるさとを訪れ、現地の少数民族の皆さんと触れあえるは、このツアーならではの特典です。サポーターの皆さんはもちろん、サポーターでない方もぜひご参加ください。

→ 日程など詳細は決定次第お知らせします。



ツアー概要

- 感動の春蕾卒業式参列
- 「50の小学校プロジェクト」支援校訪問
- 春蕾生ふるさと訪問など

心と心がつながる 教育支援 「25の小さな夢基金」 2019サポーター予約受付中



さまざまな理由で学業を続けることが難しい雲南の女子高生を3年間、1対1で支援する「25の小さな夢基金」。昨年9月に入学した93名は、おかげさまで全員サポーターが決まりました。ご協力、本当にありがとうございました。今年9月にはまた新入生が入学します。現在、彼女たちのサポーターの予約を受け付けています。ご支援をお願いできる方、お待ちしております。

「25の小さな夢基金」詳細は……

協会公式 HP
(<http://www.jyfa.org>)

→ 教育支援 → 「25の小さな夢基金」

お問い合わせ・お申し込み →
東京本部事務局
(月～金、10～18時)

TEL 03(5206)5260
yunnan@jyfa.org

連載

こんにちはCSR

—協会を支えてくださる協力企業からのメッセージ—

第23回●メディネットインターナショナル株式会社

長年にわたって協会の活動を支援していただいているメディネットインターナショナルの三木秀隆氏を、仕事場である上海森茂診療所にお訪ねしました。三木氏は薬科大学を卒業後、病院・製薬会社に勤務。その後、薬剤師として独立し、東京都内で調剤薬局チェーンを営んでいました。この間に全国の医師、看護師、病院経営者、製薬会社などとの人脈を育み、薬局経営から医療システム全般にわたる総合コンサルタント会社、メディネットインターナショナル株式会社を創業しました。

会社概要■

●メディネットインターナショナル株式会社
設立：1997年
所在地：〒214-0006
神奈川県川崎市多摩区菅仙谷4丁目1番5号
HP <http://www.medinet-int.jp>

●上海森茂診療所
設立：1998年
所在地：〒200120
中国上海市浦东新区陸家嘴環路1000号恒生大厦3樓
HP <https://senmaoclinic.co.jp>

上海森茂診療所は、上海市浦东新区陸家嘴環路1000号、恒生銀行ビルの3階にあります。黄浦江公園の対岸、未来都市のような超高層ビルとSFアニメのようなテレビ塔をご記憶の方も多しはず。この一帯は中

国が改革開放政策の先駆けとして、東洋一の金融都市をめざして開発が始まった場所です。森茂診療所はそのテレビ塔のほぼ真後ろにあります。

1995年、当時、日本で調剤薬局チェーンや新方式の病院システムの開発を成功させていた三木秀隆氏は森ビルの先代社長から直々に依頼を受け、上海に日本方式の医療施設を開設することになりました。中国の法律や医療機関の慣習、医療関係者の意識の違いなどさまざまな困難を乗り越えて、1998年に上海森茂診療所が誕生しました。

森茂診療所は、法律上は「病院」ではなく「診療所」です。手術や入院施設はあり

ませんが、CTスキャナーなどの最先端検査機器を備え、早期発見し必要であれば日本の大学病院や中国の病院と連携しています。スタッフは日本人医師を含む4名の医師が常勤し、看護師7名（日本人2名）一日平均30～40名の外来及び健康診断医に対応しています。「ここへ来て良かった安心した」と言われる診療所でありたい——三木氏は森茂診療所のモットーをこう表現しています。病気の治療だけでなく健康診断、栄養指導、健康相談など予防医療にも力を注ぎ、上海在住日本人の大きな精神的支えとなっています。

三木氏には忘れられない出来事があります。ある中国人の若者が末期ガンと診断され、両親は日本の医療に一縷の望みを託して三木氏を訪ねてきました。三木氏はメディネットのネットワークをフル稼働して、日本のある総合病院に受け入れてもらいました。病院は若者と両親に、中国では行われていない事前説明（インフォームドコンセント）を懇切丁寧に行い、最先端の「粒子線治療」を3カ月行いました。また併用して免疫療法も実施しました。1クール終了後ガンは縮小し若者と両親は喜んで帰国しました。ところが2クールをスタートする際、若者は長期の日本滞在を嫌い中国の民間療法を選びまし

た。半年後、両親に看取られて亡くなりました。三木氏も診療所のスタッフも心を痛めたそうです。しばらくして両親が診療所を訪ねてきて、三木氏の手を取って丁寧な感謝のことばを繰り返したそうです。両親は日本式の治療に納得していたが、子供の意志を尊重したそうです。

上海と東京を往来して25年。「自分は経営者よりは起業家タイプかもしれない」と自らを評し、勇退を考えているとか。とは言いつつも、経済大国中国の医療現場の問題を熟知する三木氏には新たなビジネスも視野にあるようです。「人に喜ばれる仕事がいいよね」と1948年生まれが目が輝いていました。



三木秀隆社長

※CSR=Corporate Social Responsibility（企業の社会的責任）：利益を追求するだけでなく、組織活動が社会へ与える影響に責任をもつこと

第18回 チャリティー忘年会 日本と雲南少数民族友好のタベ

年末恒例のチャリティー忘年会が昨年12月15日、ピアステーション恵比寿（東京都渋谷区）で開かれました。中国大使館の詹孔朝総領事とJR総連の榎本一夫執行委員長を来賓に迎え、会員、ボランティアなど100名以上が参加しました。

詹孔朝総領事は「18年間雲南の子どものために活動している、日本で唯一の協会を高く評価します」と挨拶。初鹿野恵蘭理事長が18年間の支援と協力に対する謝辞を述べた後、映像で2018年の活動を振り返りました。

皆さんお待ちかねのアトラクションでは、「寒水・能見ダンスグループ」が今回もダンスショーを披露。その後、80歳を越えてなお現役の舞踏家、寒水泰江先生のリードでヒップホップダンスに挑戦しました。さらに中村有里子理事の太極拳の先生である姜馳先生の、優雅でかつ力強くダイナミックな演武を鑑賞



し、健康太極拳にチャレンジ。ある参加者は「協会の忘年会はハード。でも普段できないことが体験できるのも楽しみの一つ」と笑顔で息を切らしていました。

今回、人づてに聞いて初めて参加された方が会員になったり、「25の小さな夢基金」のサポーターに申し込んでいただいたりと、「支援の輪」は着実に広がっています。

ご協力（順不同、敬称略）
株式会社技術評論社、寒水・能見ダンスグループ、姜馳、杉山めぐみ、参加者全員
ボランティア協力（順不同、敬称略）
顧暢、李瑞穎、張豆、劉雨涵、程恬、蘇鑫、王寧、董紅俊、劉穎桑、土田淳志

温かいチャリティー募金をたくさんの方々にいただきました



忘年会に初めて参加して



姜馳先生

理事の中村有里子さんのお誘いで協会の忘年会に初めて参加しました。当日、スタッフの方々が民族衣装で出迎えてくださり、一瞬別の世界にきたのかと思いました。活動報告のビデオ上映を見て、協会には18年もの歴史があり、支援している春蕾クラスの卒業生700名以上が活躍していると知り、大変感動しました。各界の方々と中国大使館の総領事、書記官も忘年会に参加していて、皆さんと一緒に楽しく太極拳を体験でき、嬉しく思いました。次回も友人と一緒にぜひ参加したいです。

姜馳

協会ボランティア通信

連載 第15回
蘇鑫さん

ある時は岐阜から東京・お台場のグローバルフェスタへ、またある時は猛暑の名古屋「七彩雲南 雲南少数民族の舞踊と文化展」へ、またまたある時は大阪のワン・ワールド・フェスティバルへ。忙しい仕事の合間をぬって、岐阜からボランティアとして協力していただいている会員の蘇鑫さん。同じ会員の丁勇軍さんとのご縁から協会を知った蘇さんには「雲南人として日本でできる支援に参加したい」という熱い思いがあります。協会活動に携わった感想を寄せてもらいました。

雲南省紅河州石屏県出身の蘇と申します。来日して10年目になります。通っていた福建省の大学で2007年に交換留学の機会を得て、初来日しました。留学期間中、留学生寮で様々な国の方と共同生活し、国際協力の意識が芽生えました。その後、ある国際協力のNPOの活動を通じて東日本大震災のボランティアに参加し、健全な社会を作るためには、政府のほかNPO等の活動が重要であると知りました。

知人の紹介で、7年前から協会のことは

知っていましたが、就職して東京を離れたこともあり、活動には参加できませんでした。2年前のお盆休みに、日本の友人を連れて雲南へ観光に行った時、雲南省の自然、歴史、多彩な少数民族文化に魅せられ、故郷の美しさを再認識しました。ちょうどその頃、政府主導の貧困撲滅キャンペーンが行われ、父が山奥の農村で支援活動を行うことになりました。父から送られてくる写真を見て、農村部と都会の経済、生活環境等の格差が大きいことを実感してしま

このようなことから、雲南のことを日本へ発信したい、日中協力を兼ねてできることからやっという思いで協会活動に参加することを決意しました。

先日、大阪で開催された国際協力イベント「ワン・ワールド・フェスティバル」にボランティアとして初めて参加しました。様々な団体が出展する中、協会ブースで少数民族の支援活動をはじめ、民族衣装やトンパ文字、観光資源等を紹介しました。ブースを訪れた方々には、雲南省に非常に興味をもっていただき、雲南省への行き



方を詳しく尋ねられたりしました。今後でもできる範囲で協会の活動に邁進していきたいです。

会員 蘇

大宮支部
イベント
報告

大宮支部 新年会

毎年恒例の大宮支部新年会が1月13日に開かれました。雨の予報でしたが、当日は晴れわたり、会員、ボランティア、子どもなど31名が集まりました。

今年も早くから駆けつけてくれた方々が料理を手伝ったり、ワンタンを包んだりするなど、テーブルに次々と料理が並べられました。そして、鳥羽さんによる乾杯の発声で新年会スタート。にぎやかな雰囲気の中、情報交換したり中国語を習ったりしたほか、2月の春節パーティーや大宮支部の年間の活動計画について意見交換しました。楽しい時間は瞬間に過ぎ、気がつくと外はすでに真っ暗でした。このような交流の場はあまりないので、もっと時間があればと思いました。

早朝から手伝いに来てくれた市川さん、上海料理を持ってきてくれた宋さん、タイ料理を持ってきてくれた松本さん、ありがとうございました。今年も大宮支部のボランティア活動にご協力いただきますようお願いいたします。



大宮支部ボランティアの皆さん



大宮支部支部長 寺内明子

大宮支部 第8回 春節パーティー

大宮支部主催の第8回春節パーティーが、2月10日、埼玉県の上尾市文化センターで開催されました。国籍や出身地が異なる100名以上の来賓や仲間が一堂に会し、ご縁があれば千里もの距離を越えて巡り会える、という意味の「有縁千里来相会」という中国のことわざを思い出しました。

雲南省出身の寺内明子大宮支部長と20名以上のボランティアが腕によりをかけた雲南料理に舌鼓を打ち、楽しい時間を過ごしました。

上尾市国際交流協会会長からの8年に及ぶ当協会へのご支持には大変感謝しております。皆さまにおかれましては、今年も盛り多き一年であることを心よりお祈り申し上げます。

会員 横山晋

ご協力(順不同、敬称略): 上尾国際交流協会、株式会社ヤマム口、株式会社盛華、青島ビール、行政書士横山国際法律事務所、日本産業投資技術促進株式会社、日中商報ボランティア協力(順不同、敬称略): 鳥羽清弘、大泉國雄、川口邦夫、横山晋、佐藤正典、服部恵美子、遠間菜津子、舒莉萍、青柳茂樹、小川輝夫、松尾ユイ、楊林梅、市川由美子、宋愛平、高落、吉沢麗子、大野洋子、山下英美、藤信、金子沙樹、小俣小輝、松本ユバ、寺内明子

ご協力いただきました皆さんにこの場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

大宮支部支部長 寺内明子



寺内明子支部長(左)と会員の鳥羽清弘さん



全員で手をつなぎダンス

イベント
報告西日本最大!世界につながる国際協力のお祭り
第26回 ワン・ワールド・フェスティバル

国際協力118団体出展 2日間で25,000名来場

第26回ワン・ワールド・フェスティバルが大阪で開かれ、今年も協会の活動紹介と少数民族グッズ、プーアル茶を準備して臨みました。今回初めてボランティア参加してくださった雲南省出身の蘇さんのあざやかな婚礼用民族衣装が人目を引き、たくさんの方が集まってこられました。雲南省を初めて知った方、旅行で訪れて懐かしがっていらっしゃる方など様々で、少数民族のことや協会の教育支援について皆さん熱心に耳を傾けてくださいました。プーアル茶の試飲は今回も大好評で、特にバラ茶が人気でした。関西の方に協会の活動を知っていただくいい機会になったと思います。充実した2日間でした。

ボランティアリーダー・会員 平松宏子



ボランティア協力(順不同、敬称略): 近藤敏、小寺孝子、丁由蘭、蘇鑫、平松康弘、平松宏子

キッツグループ 新年賀詞交歓会

協会法人会員の「株式会社キッツ」などキッツグループの新年賀詞交歓会が1月7日、帝国ホテル(東京都千代田区)で開かれ、1,000人を超す関係者が出席、初鹿野恵蘭理事長と林理事もお招きいただきました。同社には「25の小さな夢基金」を会社ぐるみで応援していただいております。協会顧問でもあるキッツの清水雄輔名誉最高顧問に、同社の長年にわたるご支援に対する感謝をお伝えしました。



清水雄輔名誉顧問(右から2人目)

2019年中国大使館・日中友好団体新年会
初鹿野恵蘭理事長出席

中国大使館・日中友好団体新年会が1月28日、ザ・プリンスパークタワー東京で開かれ、初鹿野理事長が出席しました。日本側からは林芳文文部科学大臣、河野太郎外務大臣が挨拶しました。

程永華大使は挨拶で「今年は両国政府間の『中日青少年交流促進年』で、今後5年間で青少年3万人の相互訪問を計画している」と紹介しました。協会も今夏、雲南の大学生を迎える「第5回日雲大学生交流グローバルリーダー育成プログラム」を予定しており、青少年交流をいっそう進めていきます。



河野太郎外務大臣(左)と初鹿野恵蘭理事長

JR総連2019年新年の集い

初鹿野恵蘭理事長ら出席

協会法人会員であるJR総連(全日本鉄道労働組合総連合会)の「新年の集い」が1月9日、ホテル雅叙園東京(東京都目黒区)で開かれ、国会議員や関係者ら約200名が出席。初鹿野理事長も招待されました。

JR総連の皆さんには、チャリティーゴルフコンペや忘年会に毎年ご参加いただいております。長年にわたるご支援に対し、榎本一夫執行委員長にお礼を伝えました。



榎本一夫執行委員長(左から3人目)

平成30年度 第4回理事会及び役員・顧問会 開催報告

平成30年度第4回理事会及び役員・顧問会が下記の通り行われました。

日時:平成31年2月15日(金)

場所:株式会社技術評論社3階 会議室

【議案】日本雲南聯誼協会コンプライアンス管理規定案、監事増員、平成31年度理事会及び総会審議を行い、全て原案通り承認されました。



お知らせ

第14回 雲南省少数民族貧困児童教育支援
チャリティーゴルフコンペ

「25の小さな夢基金」支援生徒決定

昨年10月13日開催のチャリティーゴルフコンペで寄せられた収益金により、今回も新たに3名の春蕾生の支援が実現しました。ご参加いただいた皆様に感謝申し上げます。



石歌瑩さん(ハニ族) 玉溪市出身



李苗さん(チボ族) 徳宏タイ族チンポー族自治州出身



王春夢さん(漢族) シーサンバンナ・タイ族自治州出身

雲南懇話会で季瑞穎さんが講演!

2018年12月23日(日)にJICA国際会議場(東京・市ヶ谷)で開催した第47回雲南懇話会で、季瑞穎さんが、雲南・ハニ族の棚田文化(稲作、自然崇拜、暦法、祭りなど)について講演されました。季さんは現在、お茶の水女子大学大学院に留学中の若き学究です。

「雲南懇話会」は、中国雲南省の最高峰・梅里雪山(6,740m)を中心とする「雲南・チベット地域」及びその周辺地域の総合的な研究を進める事を目的に、首都圏在住の京都大学山岳部OBが中心となって、2004年12月に発足しました。

研究の成果は、雲南懇話会HP (<https://www.yunnan-k.jp/yunnan-k/>) で公開する



季瑞穎さん

他、「ヒマラヤ学誌」(学際誌)に寄稿しています。「ヒマラヤ学誌」に掲載された全ての論考・記録・紀行文等は、京都大学ブータン友好プログラム(<https://www.kyoto-bhutan.org/>)に掲載され公開されています。2016年6月以降、雲南懇話会は、京都大学ヒマラヤ研究ユニットと京都大学山岳部の共催で行なわれています。

雲南省を語る若き学究を紹介いただけないかと思い初鹿野恵蘭理事長さんに相談致しましたところ、出国直前の忙しい時期にも拘らず、季さんをご紹介いただきました。その節は、誠にありがとうございました。

雲南懇話会 前田栄三

イベント
情報「25の小さな夢基金」
第9回「夢は叶う」講演会

日時:4月20日(土) ※予定

場所:昆明市女子中学

第19回 定時総会

日時:6月1日(土)

場所:日本雲南聯誼協会東京本部

「25の小さな夢基金」
卒業式参列「ふれあいの旅」

日時:6月下旬から1週間程度

訪問地:昆明市女子中学、春蕾生ふさと、協会支援小学校等 ※予定

アジア未来への人材育成プロジェクト
第5回
日雲大学生グローバル
リーダー育成プログラム
国際交流会

日時:8月1日(木)~10日(土)

実施地:長野県・東京都

Information 東京本部事務局

ゴールデンウィーク休業

休業期間:4月27日(土)~5月6日(月)

ご不便をおかけいたしますが、ご理解・ご協力をお願いいたします

お知らせ

協会の最新情報発信!



「いいね!」「シェア」をお願いします!

●Facebook 協会公式アカウント

<https://www.facebook.com/NPO.JYFA>

●「雲南省 少数民族の女子学生に夢を! 25の小さな夢基金」公式アカウント

<https://www.facebook.com/25foundation>

●ブログ「雲南の郵便屋さん」

<http://blog.canpan.info/yunnan/>

●協会公式HP

<http://www.jyfa.org/>

編集後記

外国人労働者の受け入れ枠が4月から広がり、日本政府は介護や外食などの分野で約34万人の外国人労働者を受け入れる計画です。協会が支援する雲南の子どもたちも、日本で働けるチャンスが増えます。心配なのは、こうした情報が雲南省の大学などに届いているかということです。せっかくのチャンスも、人材を養成する側がそれを知らなければ意味がありません。日本の状況をよく理解してもらうことも、協会の重要な仕事だろうと思います。

(編集長・木本 一彰)